

「みついし花き振興会」をご紹介します！

日高振興局から、デルフィニウム生産量が道内一のみついし花き振興会をご紹介します。

この度、収穫等でお忙しい中、7代目会長の道下さんにお話を伺いました。

○みついし花き振興会のあゆみ

新ひだか町(旧三石町)における花きの生産は、平成元年から6名で始められ、みついし農業協同組合(旧:三石町農業協同組合)の下部組織として同会(旧:三石町花卉振興会)が設立されました。

現在では、JAひだか東の生産者7戸とJAしずないの生産者5戸を含めた計53戸で産地ブランド「みついし花だより」として、道内外の市場へ出荷しています。

○道内一のデルフィニウムの産地

みついし花き振興会の平成24年度のデルフィニウムの実績は、数量386万本、作付延べ面積14haとなっています。

作付けは、春植え夏取り(2月下旬~6月)、夏植え秋取り(7月~12月上旬)の2体系で行われ、収穫最盛期は月・水・金・土で収穫し、次の日に集出荷施設に出荷され、関東や関西等の市場へ出荷されます。

デルフィニウムの他にも、スターチス、ダリア、マトリカリア、ソネットが主力として生産されています。

○みついし花き振興会の今後について

近年は、異常ともいえる夏から秋にかけての猛暑の影響により、出荷量が減少したことから、その暑熱対策の取組みや、土壌消毒などにより連作障害を防ぐことが大きな課題となっています。

これら課題の解決には、地域が一体となって取組み、技術として定着するためには長年の努力が必要です。

しかしながら、振興会生産者の平均年齢は40代後半とまだまだお若く、息子さん等の後継者や新規就農者もいることから、産地として発展拡大がおおきく期待されます。

○あとがき

道下会長に今年の状況を伺うと、春先の低温で1週間から10日ほど遅れており、品質は変わらないものの、若干規格外が多いとのことでした。

取材当日も6月にしてはとても寒い日でしたが、良い出来秋を迎えるよう期待しています。

さて、デルフィニウムの花言葉は「あなたは幸福をふりまく」だそうです。
みついし花き振興会から全国へ幸福をふりまいて、日本が元気になるよう願っています。



穏やかな笑顔の道下会長



出荷を控えるデルフィニウム

(平成25年6月取材 日高振興局農務課)